

2024
March

Vol. 29

BUDOU
ぶどう

- Alumnae association bulletin - 2024

私はぶどうの木、
あなたがたはその枝である

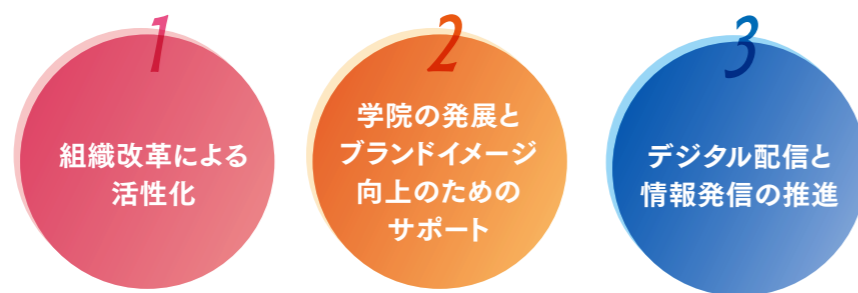
*I am the vine, you are the branches. He who remains in me, and I in him,
bears much fruit. For apart from me you can do nothing.*

I am the vine, you are the branches.
John 15:5



福岡女学院同窓会会報

同窓会のビジョン



▼ 組織改革による活性化

① 学校部会の設立と本部との連携



●各学校の特徴を生かした活動を行うことで、同窓生(正会員・準会員)にとってより魅力ある活動を目指す。

2023年度活動紹介

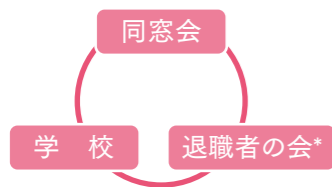
- 短大・大学部会 … 思い出の小郡キャンパスツアー/ 地域清掃活動 / 在学生(準会員)のための未来探訪カフェ開催 など
- 看護学部部会 … 看護大学15周年記念行事への参画/ OiTr(生理用ナプキン無料サービス)設置支援
- 中高部会 … 中高部会役員と中高校長とのミーティング/ 『中学校舎で思い出授業体験』開催支援 など

●各学校部会の役員会を充実させながら、本部役員会は少数精鋭化を図る。
本部は各学校部会と連携し、学院との協力関係を構築する。

② 支部組織の再構築

小さな地域の集まりも考えた、時代や同窓生のニーズに合わせた新たな形を検討中

③ 学校・退職者の会・同窓会の連携



- 中高主催の『中学校舎で思い出授業体験』(2023年5月、7月開催)は、中高と同窓会、退職者の会*の三者が連携して開催。300名を超える同窓生で賑わった。
- 同窓会においても、退職者の会に協力をお願いし、思い出授業を担当いただいたり、クリスマス会にご参加いただくなど、同窓生との懇親を深め、相互の活性化を図っている。

*『福岡女学院退職者の会』は、女学院を退職した元教職員の会。会員相互の交流と、学院の発展に寄与することを目的としている(2012年発足)

▼ 学院の発展とブランドイメージ向上のためのサポート

中高校舎の建て替えのための『かがやく』応援募金への支援。下記のイベントを開催し、収益金を募金へ寄付。

- 『シルク時空をこえて』(2023年11月)映画上映会
(この上映会は学院の生徒・学生の無料招待。外部向け女学院のイメージアップにも繋げることを目的とした)
- 『中学校舎で思い出授業体験』を学年同窓会プランとして企画、提案。参加費用の一部を寄付。
- 各イベントでバザー開催
- * 同窓会内に、『かがやく』応援班を作り、寄付とイメージアップに繋がるイベントを企画、運営。

▼ デジタル配信と情報発信の推進

- 同窓会広報誌『ぶどう』のデジタル配信促進。希望者への申し込み呼びかけを行っている。
- HP、SNS(Instagram、Facebook)、LINEを通じて、同窓会の活動を発信。

会長挨拶



同窓会会長
野田 幸子
(1979(S54)年高卒)



同窓生の皆さま、今年はどうのような新春をお迎えになりましたでしょうか。

コロナ禍以降、様々な変化を余儀なくされた社会の波は、私たちの母校・福岡女学院にも例外なく押し寄せてきました。少子化の煽りを受けて女子教育自体が危ぶまれる時代となり、共学化、閉校などのニュースを聞くたびに、私たち同窓会でできることはないかと常に考え、行動せざるはられません。

福岡女学院は、厳しい時代に大きな勇気と信念をもって支えてくださった方々あってこそ今があります。ギール先生を筆頭に、キリスト教主義の女子教育のために多くの資金を投じた米国キリスト教女性部会、キリスト教弾圧や女子教育の必要を認めなかった時代に、忍耐し努力し、惜しまぬ支援をくださったたくさんの方々のおかげのうえに私たちは学び、そして今があるのです。

ITやAIが発達し便利で合理的な時代では、人と人とのつながりや、何よりも思いやりや優しさを大切にした教育が必要です。福岡女学院の建学の精神、福岡女学院が目指している女子教育を、今もしくはこれからの未来において、世の中が最も必要としているように思えて仕方がありません。そのために学院では、教職員皆さまが懸命に力を尽くしていらっしゃいます。同窓会はそれを全力で支える存在でありたいと思います。

現在、福岡女学院同窓会では、中高、短大・大学、看護大学の3つの学校部会を軸にそれぞれが自立した活動を行い、同窓会全体の活動を活性化していくという目標に向けて着実に前進しています。看護大学、短大・大学に続き、今年度は中高部会が立ち上がりました。5月と7月に「中学校舎で思い出授業体験」は、中高と同窓会、そして旧教職員の「退職者の会」がひとつになって開催され、総計

300名を超える卒業生が学び舎に集いました。その後、中高校舎の建て替えのための『かがやく』応援募金へのご寄付の件数が順調に増えているとお聞きしました。同窓会の活動が学院の力になっていることを大変嬉しく思っています。

今後の課題は時代に合わせ、形ややり方を変えつつも、福岡女学院同窓生の強み、受け継いでいくべき良きものを活かした同窓会支部の在り方を検討していくことです。

今年新年早々支部長会を開催し、今後の同窓会の発展のために知恵をもちより、新たな形でそれぞれの支部が進めますよう具体的な準備をしていくことで合意しました。

同窓会の発展のために、どうか皆様からのお力添えを賜ります様よろしくお願い致します。

高校校舎が完成します



2024年1月現在
校舎建設工事の様子

『かがやく』応援募金
について



詳しくは
『かがやく』応援募金
で検索ください

138年の歴史ある福岡女学院 皆さまの心の中には、現在の校舎で過ごしたたくさんの方の思い出が詰まっていることでしょうか。新たな学び舎は2024年2月に完成いたします。さらなる教育の充実及び施設設備の充実のため、そして、これからの福岡女学院の発展のためのご支援をお願いいたします。

2023年度 総会報告

2023年5月21日 福岡女学院ギール記念講堂にて
2023年度同窓会総会を開催いたしました。
全ての議案について、承認をいただくことができました
のでご報告いたします。

しかしながら、前日20日の創立記念行事が4年ぶりの
通常開催となったこともあいまって、総会自体の参加人
数が少ないことへのご指摘を受けました。ご出席いただい
た会員の皆様からのご意見を真摯に受け止め、今後の総
会運営も改めて考えていく所存でございます。

今後とも、お心を寄せていただき、ご理解ご協力を賜
りますようお願い申し上げます。

中高で取り組む探究活動『凜』として、花二輪プロジェクト
ト(通称..はないち)の中で生まれた、チーム名『New
Horizon』の高校3年の6名は、第10回高校生ビジネスプ
ラン・グランプリ(日本政策金融公庫 主催)にて、ファイ
ナリストに選ばれました。優秀賞を受賞した、ソーシャル
ビジネスのプラン「にゆくほらcafe」のプレゼンテー
ションを特別プログラムとして、披露していただきました。



創立139周年 2024年度 福岡女学院同窓会総会

場 所：福岡女学院 日佐キャンパス

会 費：無料(※要事前申し込み)

日 時：2024年5月18日(土) 14:00～15:30

当番学年：1997・1998(H9・10)年高卒、1999・2000(H11・12)年短卒、
2001・2002(H13・14)年大卒

QRコード または **同窓会事務局** まで
FAX 092-575-2479 TEL 092-575-2479
お申込み締切:5月7日(火)



申込みは
こちらへ

- ・学院創立記念行事と同日開催。午前中メイボールダンスやバザーもお楽しみいただけます。
 - ・お弁当をご希望の方には予約販売いたします。(千円程度、当日ご用意ください)
 - ・アトラクションとして、新校舎の一部をご案内するキャンパスツアーを予定しています。
- ※詳細はホームページ・SNSでお知らせしますのでご確認くださいませようお願いいたします。



中高部会

会長ご挨拶

中高部会発足に

寄せて

坂元恵子



2023年5月の定期総会で、中高部会発足の議が承認され、中高部会長に坂元恵子(1964(S39年卒))が、他に4人の役員が推薦を受け活動を開始しました。先に発足し、活動中の「短大・大学部会」・看護大学部会に倣いながら、「中高部会」独自の活動をしていきたいと考えています。同窓生の皆様のご助言やご意見、ご希望を賜わりたく存じます。どうぞ宜しくお願いします。

母校は2025年に創立140周年を迎えます。この長い年月は同窓生一人一人が積み上げてきたものです。そのことを思うと深い感動を覚えずにはいられません。そして、「今」というこの時が歴史の一つのピースとなつていきます。母校の長い歴史と同窓会のこれまでの活動を振り返り、それを大切にしながら、これからの女学院を創っていく中高の生徒さんたちに役立つことではないかと模索し、活動していきたいと思っております。

重枝校長との意見交換会

10月7日(土)中高部会発足の挨拶として、重枝校長を訪問し副校長の津留崎聡史先生、久家康彦先生を交えて意見交換の場をいただきました。伝統と革新を融合させ進化を続ける中高教育の"今"を知り、今後の部会活動に多くのヒントをいただきました。



校長室にて明るく和やかな雰囲気の中、今後の連携について意見を交わしました

中高部会 役員

6年間を過ごした思い出ある女学院の為に少しでもお役に立てるように頑張ります。(氏名、卒業年、中高の思い出を一言)

相良 美佐 (1982(S57)年高卒)

中学入学時、指定の靴にサイズがない程の小柄でしたがお蔭でメイクインのお裾持ちを経験。高校の修学旅行では快晴の黒部ダム、風情ある街並みの飛騨高山に感動、あのコースでまたいつか行きたいです。土曜日は学食で時間も忘れておしゃべりしてましたね。



宮下 彩 (1997(H9)年高卒)

職員室に他愛もない質問をしに行っていたこと、音楽部の練習で二田先生や部員でわいわい(喧嘩譚?)していたこと、修学旅行で玉虫厨子を見ていたら周りに誰もいなかったことなどなど、全てが思い出です。



安永 実沙 (1997(H9)年高卒)

修学旅行で玉虫厨子に見とれる親友M氏をおいて一人で先に集合場所に行ったこと、定M氏は運刻。クラスみんなに「なぜ一緒にいかないのか?」「なぜ連れてこなかったのか?」と怒られた。その後、修学旅行中のM氏のお世話係に任命されました。



谷浦 紋圭 (2007(H19)年高卒)

青上靴の学年です。片道約2時間かかった通学も今思えば最高な青春の1コマでした。十数年ぶりに訪れた西鉄井尻駅はとてもエモかったです。礼拝の音楽と売店のマフィンが懐かしく思います!



再会に喜び溢れる一日

思い出授業(学年同窓会)

私たちの学び舎である中学校、高校校舎の建て替えを前に、昨年二度にわたり中学校舎で懐かしい先生方による「思い出授業」が開催されました。多くの同窓生が集い、久々の再会に喜びの声が溢れる素晴らしい時間となりました。中高部会では、現在、中学校舎を会場にした「学年同窓会」を実施しています。第1回として1979年卒業の同窓生が校舎に集われました。まるで当時のタイムスリップしたかのような楽しく懐かしいひと時のレポートです。

参加人数 1979卒 41名
1953卒(業院校舎卒)1名 1953卒の方はお一人でしたが、一緒に参加していただき、楽しい時間でした。卒業以来、初めて会うお友達もいて、みんなすっかり中高生に戻っていました。

懐かしい中学校舎で 礼拝ではじまる思い出授業

懐かしい香りと空気に包まれながら、大人になって参加する授業は当時と違う新たな気づきと学びがあります。



授業のあとは、リーホールで懇親会

音楽科卒業生の伴奏で、皆でハレルヤを歌いました。豊かな音楽に彩られた学院生活に思いを馳せます。



素晴らしい一日を終えて記念の一枚

私たちだけの特別な展示会

久しぶりの再会を祝って、1979年卒業生の入学から卒業まで、完全オーダーメイド 1日限りの特別展を開催しました。



参加者の声

「久しぶりに昔の友に会える機会をいただけて感謝しています。日々の暮らしの中で、みんなそれぞれ、色々な問題をかかえていると思います。でもひととき、そんなことは忘れ、懐かしい校舎ということもあり、女学生時代に戻り、楽しい時間を過ごせました。お世話いただいた方々、ありがとうございました。」

「今回の同窓会は会場が女学院の校舎であったため、懐かしい母校を見て回る楽しさも加わって、瞬間に時間が経っていききました。ハレルヤコーラスは、私はとても歌声が出せませんが、やはりハレルヤが歌えるのは女学院生の自慢かなと、あらためて思ったことでした。本当に、楽しいプログラムの同窓会を企画してくださってありがとうございます。またお会いできる時を楽しみにしています。」

「1年1組の教室に入り着席すると、当時の机と椅子が準備してあり、50年前の中学生に戻ったような不思議な感覚でした。礼拝、お祈り、讃美歌と毎日当たり前のように行っていた事が懐かしく、胸が熱くなりました。懇親会もあり6年間、時を共に過ごした仲間と再会出来た素敵な1日でした。」

ご案内

中高部会では「学年同窓会」の開催希望を受け付けています。ご関心のある方は、福岡女学院同窓会事務局までお問い合わせください。
tel. 092(575)2479 【受付時間】(月曜日～金曜日)午前 10:00～12:00 / 午後 13:00～17:00

/// 校長からのメッセージ ///



校長 重枝 一郎

ジェンダー・バイアスのかからない自由で穏やかな雰囲気の中で、自分に素直な認識方法や興味関心が肯定的に捉えられ育成されていくことは、女性特有の能力だけでなく、男女が共有している能力も十分開花させ自己確立を促します。それが女子校の教育環境の好ましさだと考えます。

本校は、女子による女子のための学校としてスタートしています。これは「女子のキャリアラムの学校」としてスタートしているということですが、開校当時のことは、想像してみることしかできませんが、「勇気のいるチャレンジ」には違いないと思います。そのDNAは学校風土としてずっと引き継いでいきたいと思います。初代校長ギール先生が「本校は女性が新しい生き方を見つけれられる学校」と定義づけています。これは今も、そしてこれからも生き続けます。

- ◆ 今回、中高への直接的な支援ができるということで、新しく「中高部会」が発足されました。その役員になられた方々に対して、私から率直に次のような話をさせていただきました。
- ◆ 卒業生は自分の時代はよかったです。今の生徒は物足りなさを感じることもある。しかし、どの時代であれ、今の生徒たちもみなさんと同じように充実した学校生活を送っている。そして同じように素敵な学生時代の思い出をつくる。自分の時代と違っていても、今の生徒たちを応援するのが同窓会である。
- ◆ 「教師が元気がない・成長しない学校は、生徒も元気がない・成長しない」。だから、先生たちを応援することを忘れてはいけません。
- ◆ 同窓会は、いい噂だけを発信していくことが大切。学校は評判産業なのだから。ただ、このような部会において、様々な意見交流はしなければならぬ。
- ◆ 先生方の生徒に対する寄り添い支援する姿は、昔から変わらず素晴らしい。このことが本校の強みでもある。

午前中は、小郡市の名所・旧跡を観光しました。古民家を改築した風情あるお店でランチをいただき、小郡銘菓をお土産に、笑い声と楽しいおしゃべりで大いに盛り上がりました。



にぎやかなバス車内

キャンパスには、当時の机やいすがそのまま使われている部屋もあり、学生時代を思い出して昔話に花が咲きました。ご参加くださった壹岐裕志先生、吉田修作先生、池田肇子先生が教壇でお話をしてくださり、まるでタイムスリップしたかのようでした。

卒業以来の再会もあり、これを機にまた「ぶどうの枝」につながる事ができた喜びいっぱいの日となりました。



古民家レストランでランチ



小郡観光

かつてのチャペルは素敵な空間に //



同窓会から贈られた
オリーブの木と
キャンパス



短大・大学 部会

同窓会イベント 福岡女学院大学開学の地・小郡へ

秋晴れのよき日、短大・大学部会主催で懐かしい小郡キャンパスを訪ねるバスツアーを催行しました。大学開学の1990年から2002年のあいだにこのキャンパスで学んだ仲間たちがふたたび集まり、先生方と一緒に今はI-PEX株式会社のオフィスとなった小郡キャンパスを訪ねたのです。ヴォーリズ建築の美しい外観はそのままに、「女学院らしさ」が今も残されています。

/// 学生支援イベント ///

/// 学長からのメッセージ ///



新入生歓迎!スイーツの会

～ 短大・大学部会と学生たちの四季 ～

新入生歓迎「スイーツの会」は、400個の焼き菓子を学生たちにプレゼント。学生たちの笑顔が弾ける春のイベントです。夏の「ミラタン☆カフェ」では、エアラインやマスコミで活躍するオトナたちと本音で話せる場所を作りました。ミラタンとは未来探訪の意味。夢を追いかける学生たちの真剣なまなざしがとても印象的でした。毎月第3木曜日には、伊藤学長と一緒に「星のかけら」を拾います。地域清掃活動を始めてまもなく丸3年、学生・教職員が自由に交流できる空間を楽しんでいます。短大・大学部会は、同窓会準会員である学生のみなさんを全力で応援しています!



星のかけら拾い隊



ミラタン☆カフェ



ココアとクッキーの会

学長室主催の「星のかけら拾い隊」が発足して、丸3年がたちました。教職員と学生が一緒になって学校の周辺地域のごみ拾いをする活動です。毎月第3木曜日の朝、皆が集まってにぎやかに出発。30分ほどするとごみは大きな袋いっぱいになります。地域の小中学生からは「おはようございます!」と元気なあいさつをもらいます。同窓会短大・大学部会はこれを応援してくれて、いつも差し入れをくださるのですが、それが嬉しくてこの活動を楽しんで続けています。



学長 伊藤 文一

また短大・大学部会は、学生支援活動として、「ココアとクッキーの会」や「ミラタン☆カフェ」という社会人と学生をつなぐイベントを開催しています。

こんなふうには、同窓会が応援して下さることで、我々は笑顔になります。福岡女学院を愛する同窓生のみなさまとの交流と連携で、福岡女学院大学が「日本一の大学」になるようにと、心から願っています。

O:J(オイテル)というジェンダーギャップのひとつを解決するサービスが、九州の大学で初めて本学に導入されたのも同窓会のご支援です。学生たちはとても助かっているようです。

そして、学内の雰囲気盛り上げて下さいます。大学開学の小郡キャンパスを訪ねる機会に恵まれ、現在キャンパスの持ち主であるI-PEX株式会社の社長様とは、今も親しく交流が続いています。

開学15周年・大学院開設記念式



片野学長を囲んで



2023年9月15日、看護大学にて開学15周年・大学院開設記念式が開催されました。たわわに実ったオリーブの果実が大きく成長し、来場者を出迎えてくれました。看護大学が開学された2008年に1期生が入学し、初めはまだ1号館だけだった大学に、シミュレーションセンターや食堂、徳永徹記念多目的ホールが設立され、緑がどんと増え、オリーブの葉っぱが生き生きと揺れている姿は、まるで生まれわたの赤ちゃんだった大学からエネルギーが溢れる若者へと成長をしているように感じられ、本当に喜ばしく感慨深いものがありました。

の松岡先生の講演、谷口副学長から各領域の現況報告、そして看護大学部会は「卒業生からみた15年」と題し1期〜4期までの卒業生5名を迎えてトークショーを開催し、卒業生の活躍や国家試験の思い出を語り合いました。

記念式後の昼食会では名誉理事長の十時先生、松原先生、古賀市の田辺市長にご祝辞をいただき、実習病院・施設関係者の方々や、旧教職員、卒業生、在校生が列席し、思い出のスライドショーを見ながら、和やかな雰囲気の中15年間の思い出を振り返りました。昼食会後には在校生による大学ツアーや開学記念祭が開催され、とても素晴らしい会となりました。



看護大学
部会

恩師や仲間との懐かしい再会
— 松岡 緑先生を囲んで —

卒業生からみた15年 ～福岡女学院看護大学での思い出～ トークショー抜粋

この15年の間に、看護大学は1000人以上の卒業生を輩出し、その卒業生たちは様々な医療分野で活躍しています。卒業から10年以上経つ卒業生たちは、臨床現場での経験を積みながら、次第にリーダーシップの役割や専門的な職務にも進んでいます。看護大学の大きな学びの特徴は「ヒューマンケアリング」を中心に構成されていることです。「ヒューマンケアリング」とは、看護を必要とする人やその家族に関心を抱き、慈しみ、全人的なケアを提供することで、看護職者自らも成長することです。患者さんとの深いコミュニケーションや共感を通じて信頼関係が築かれ、専門知識や技術の修得だけでなく、人間としての成長を支える心の学びとなります。

大学生活は何もかもが新しく、全てがエネルギーに満ち溢れていました。1年目は看護学、解剖学、生理学、薬理学など沢山の基礎科目の勉強、サークルや学生会の立ち上げ。2年生になると病院実習が始まり、毎日夜遅くまで課題や勉強に取り組みました。そして4年生になると就職試験や卒業研究に取り組み、最後に皆一丸となって看護師・保健師国家試験に挑みました。毎日、朝から夜まで図書館を借りて勉強し、ゼミ室に皆で集まり勉強会を開催し、わからない問題を相談して解決したりすることもありました。先生も私たちが叱咤激励しながら常に伴走してくださいました。

国家試験合格発表の日には、初代学長の徳永先生から校内放送で「全員合格、おめでとう!!」と放送があり、その瞬間全員で学長室まで走り、徳永先生や松岡先生、先生事務の方々や泣きながら抱き合っていました。

大学時代の思い出エピソード



卒業生トークショー



在学生トークショー

学長からのメッセージ



学長 片野 光男

学生・看護大学・病院に
評価の高い全国区の看護大学へ
成長しています

開学当時9校であった福岡県内の看護大学は16校へと倍増しています。他校との学生の取り合いではなく、修学環境の改善を目標に取り組んでいます。改善の根拠は、在学生・卒業生の「口コミ評価」です。現在、①総合評価②講義・授業③就職・進学④施設・設備は1位、しかしアクセスは10位です。したがって、2024年はスクールパス設置と自家用車通学の許可制をはじめ、より学業に専念できる環境整備をスタートしました。周りの学生さんに、評価の高い本学での学びをお勧めください。



音楽科卒業生会

音楽科卒業生会 代表 田口 三冬 (1983(S58)年音卒)

当会では、今年度も春と秋に学年委員会、7月には総会、9月には「卒業生演奏会」を開催致しました。演奏会はこれまで継続的に使用していたホールが改修工事中の今回、「レソラホール」に会場を移す事となったのですが、ホール側のご協力も頂き、満席に近いお客様をお迎えする事ができました。天神の目抜通りという好立地が味方し、ランチやお買い物の途中でお立ち寄り下さったお客様もおられたのはこれまでにない現象で、警固公園を眼下に望むガラス張りのロビーの雰囲気も心地良く、残暑去りやらぬ土曜の午後を笑顔で過ごされるお客様のお姿が心に残る演奏会となりました。

また、秋季学年委員会には中高の重枝校長をお招きし、貴重なお話を伺うと共に、意見交換の機会も頂戴しました。学院と音楽科のこれからについて、私達卒業生会が発展の一助となるためには何を為すべきか、関係各所としっかり連携しながら考えて参りたいと、思いを新たにしております。



卒業生演奏会出演者 53回生・54回生

賛助出演フルーティスト鬼塚さんと18回生

11月7日 中央市民センターに重枝校長をお迎えして...



2024年 福岡女学院成人祝賀会

2024年1月8日(月)ソラリア西鉄ホテルにて開催

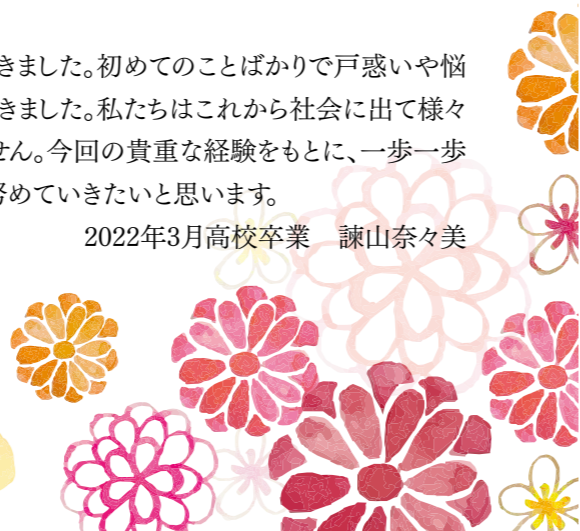


2022年3月高校卒業の黄色上靴で、成人祝賀会を開催しました。

遠方に行った友達や大学で離れてしまった同級生と「福岡女学院成人祝賀会」を通して、久々に再会でき楽しい時間を過ごすことができました。今回は立食式のパーティーで、様々な料理やスイーツなどの華やかな演出もあり、また企画として「抽選会」をしました。ご招待した先生方にも参加していただき、皆当時の学校生活を思い出して盛り上がりました。

私は今回、学年委員として運営のお手伝いをさせていただきました。初めてのことばかりで戸惑いや悩みもありましたが、委員みんなで話し合っ乗り越えることができました。私たちはこれから社会に出て様々な失敗や挫折に直面するかもしれません。今回の貴重な経験をもとに、一步一步前を向いて素敵な大人になれるよう努めていきたいと思ひます。

2022年3月高校卒業 諫山奈々美



支部長会開催

2023年5月20日



2023年5月20日、2024年1月13日 2回にわたり、支部長会を開催いたしました。各支部の現状、課題の報告を行いました。今後の活動の在り方、方向性に関しては丁寧に議論を重ねていくこととなりました。短い時間ではありましたが、各支部の貴重な意見をうかがい、有意義な会になりました。各支部の皆様、遠方よりお越しいただき、同窓会活動に心を寄せていただき、ありがとうございました。



2024年1月13日

北九州支部

2023年11月1日(水)小倉ステーションホテルにて、5年ぶり、そして新役員にはじめての「第43回北九州支部総会」を開催致しました。学院の先生方にも多数ご参加いただき、コロナがあけての久しぶりの再会で、近況報告など話が弾み賑わいのある会となりました。今回約1,500通の総会の案内状の発送は同窓会事務局をお願いいたしましたが、今までは支部の役員の方がされていたと聞き、本当に50年間支部を支えて下さった沢山の先輩方のご尽力と母校愛、素晴らしい伝統



と重みを改めて知り、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。また来年皆様にお会いできますことを祈念いたしております。

北九州支部 齋藤まゆみ

筑後南支部

筑後南支部報告としては、支部総会開催です。11月8日(水)、大牟田市の三井港倶楽部の大広間で開催しました。来賓者は、阿久戸院長先生をはじめとした諸先生方です。お忙しい中、感謝いたします。又、野田会長、稲原副会長、遠方より支部長の方々にも来ていただきありがとうございます。支部の会員には初めての参加者もあり嬉しく思いました。



支部総会の最初は、礼拝が厳かに行われました。次に、先生方のお話でした。初めて重枝中学・高校校長先生のお話を間近で聴く事ができ、熱心なお話に感激しました。先生の書かれたものに、「先生方の取組みは、種をまいて、花が咲くこと、私の取組みは、土壌を耕すこと。機械ではなく、クワで土を耕すがごとく、今年もやっしていきたい。」とあるように、理論と実践が伴っておられる方だと思いました。最後は、会食と自己紹介の時間です。お一人お一人が考えて下さる言葉は、お人柄がみえる言葉で、一喜一憂しながら、いつながら楽しい時間でした。ご参加下さった皆様に、感謝の気持ちで一杯になりました。

筑後南支部 安藤恭子

長崎支部...コロナ禍での開催は中止しておりましたが、今後はもっと集まりやすい方法とを考えております。

関西支部...現在活動を休止しております

熊本支部...現在活動を休止しております

広島支部

同窓生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。今回は広島県廿日市市の「コーヒーショップあんず」でお仕事をされている五島千穂さん(1987(S 62)年短大卒)が女学院の皆様宛にお便りをいただきました。とても嬉しく読ませていただきました。皆様に送らせていただきます。

五島千穂さんからお便り

皆様いかがお過ごしですか。学舎を出て40年近くが過ぎようとしています。人生思いがけないことがあり、私は長女を妊娠中に心の病、統合失調症を発症しましたが、家族や周りの方々に助けをいただき、何とか娘を育てることができて、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。今は、作業所で働いたり、月2回ボランティアをしています。お料理が好きで、7年近く通った作業所でお惣菜やお菓子を作っていました。現在は、「コーヒーショップあんず」でコーヒーや紅茶などの飲み物を作ったり、お給仕をしています。お客様から、私の淹れたコーヒーを美味しいと言っていたと、本当に嬉しくて、顔も心もほころびます。私たちは障害を持っていますが、この喫茶の仕事が大好きで、自分達に出来ることを精一杯やらせていただいています。嫌なことがあっても、あんずでくつろいで、少しの間だけでも楽しんでいただけたら嬉しいです。なかなか厳しい世の中ですが、少しでも優しい社会になれば良いなと思います。また皆様にお会いできる日を楽しみにしております。

五島千穂(ごとうちほ)さん



お料理が大好きで、家族や周りの方に喜んで食事作りされる五島さん、素晴らしいです。食は「利他の働き」ですね。優しいお気持ちが伝わってきます。

広島支部 松田恵美子

中部・大分・鹿児島支部

ここ数年の感染症による集会制限は解けましたが支部総会出席者には、年齢を重ねていらっしゃる方も多く、加えて、役員を引き受けてくださる方が見つからず元のように開催することが、難しい状況です。今後の支部の在り方を含め、同窓会本部役員の皆様と話し合いを続けます。進むべき方向が決まるまで、しばらくお待ちください。

関東支部

関東支部では次年度のサポーター長、メインサポーター3名も決まり、コロナ禍以降対面でできなかった『談話室ぶどう』や『Xmas 礼拝&祝会』も無事開催する事が出来ました。これも一重に皆様方のご理解ご協力と神様のお導きの御陰と感謝しております。本当に有難うございます。若い世代へのバトンタッチ! 応援して戴きましたら幸いです。詳しい活動内容等につきましては、関東支部ホームページをぜひご覧ください!

<https://fukujo-og-kanto.com/>

関東支部 諸江陽子

支部だより



上映会

2023.11.25 in ギール記念講堂

2023年11月25日、中学・高校校舎建て替えのための『かがやく』応援募金の支援イベントとして、福岡女学院同窓会主催で映画「シルク時空(とき)をこえて」の上映会をギール記念講堂にて行いました。

日本の絹産業が栄えた明治時代、その産業の担い手として多くの女性関わってきたこと、そして、国や時空を超えたシルクと人々の繋がりを描いたドキュメンタリー映画です。

上映の後は、熊谷友幸監督と和文文化研究家中谷比佐子さんのトークセッションもあり、撮影への思いや撮影秘話も語っていただきました。

上映会の収益は、校舎建て替えのための寄付とさせていただきます。



138年記念行事

ホームカミング&バザー

2023年5月20日に創立記念行事が行われました。4年ぶりの通常開催となり、卒業50年を迎える同窓生をご招待しました。参加者はメイクイン・メイポールダンスの鑑賞をしたり、建て替え前の中学校舎へ足を運んだり、女学院での学生生活に想いを馳せながら楽しい時間を過ごしました。

また、同窓会集會室ではお茶とお菓子を準備して、中高、大学ハンドベル部の心に柔らかく響く演奏とともに、歓談を楽しみました。同窓生による手作り品、スイーツ、たくさんさんの商品が並び、バザーが開催されました。福岡女学院に関わる多くの皆さまと共に4年ぶりに笑顔に包まれた1日でした。



クリスマス会

2023.12.16 in エリザベス・リーホール

2023年12月16日午後同窓会主催のクリスマス会を開催いたしました。

当日はエリザベス・リーホールにて礼拝を行い、その後祝会へと進みバザーや抽選会など、和やかな雰囲気の中で盛り上がりました。外は雨模様で寒い一日でしたが、会場内はお集まりいただきました同窓生や先生方の、学生時代に戻ったような明るい笑い声と語らいの声で華やいでいました。

我々同窓会役員一同は、このような楽しいイベントの開催を通して、卒業後も女学院という脈々と受け継がれる温かいコミュニティと繋がる事で孤独にならず、また学生の頃は日常であった讃美歌を歌い祈りを捧げることでホッとひと息ついていただける、そんなひとときを提供できる喜びと意義を感じております。

今後、より多くの方々に参加し楽しんでいただけるよう工夫して参ります。



在校生支援・贈呈式

2023年12月13日、2022年7月の大学設置に続き、同窓会の寄付金による「OIT」(オイテル)を看護大学へも設置する運びとなり、贈呈式が行われました。

「OIT(オイテル)」とは個室トイレに生理用ナプキンを無料で提供するサービスです。ジェンダーギャップや経済格差など社会課題を解決するための取り組みです。



2023年12月、全日本バレーボール高等学校選手権大会(通称 春高バレー)に福岡県代表として初出場する高校バレーボール部の皆さんへ、支援金を贈りました。強豪校相手に熱い試合を見せてくれました。今後の更なる活躍を応援しています!



看護大学学友会



中高生徒会



毎年、同窓会では学生、生徒たちへ新たな学び、活動のために支援金を贈っています。

短大大学学友会



Mission Family



坂本 真由美さん

坂本真由美さんは、1982年(昭和57年)に高校音楽科を卒業後、東京藝術大学声楽科に進学。現在ソプラノ歌手として世界中で活躍しています。ドイツに留学していた時に外交官であるパートナーに出会い、主にヨーロッパを拠点に活動します。在ルワンダ日本国大使館での活動が生んだ、ルワンダの国歌をはじめとするウムバノ(ルワンダの言葉で協調の意)というアルバムは、坂本さんの代表作となっています。

プロフィール

東京藝術大学声楽科卒。フランクフルト音楽大学修士課程修了。国家演奏家資格取得。福岡、東京でベートーヴェン「第九」、ヘンデル「メサイヤ」、ハイドゥン「天地創造」などのソリストを務め、ドイツ、ルーマニア、ハンガリー、シンガポール、ルワンダ、東京、福岡にてソロコンサート開催。2015年、CD「イルミネーション」をリリース。2018年、CD「UMUBANO(ルワンダ語で「協調」、「調和」の意)」を発表。東京二期会会員、ドイツ歌曲研究会「ノイエ・クレンゲ」会員。



Q. 小さいころから音楽を？
 中学までは、音楽の道に進むなど夢にも思っていないでいました。ただ礼拝の時に讃美歌を歌うのは好きでした。中3の時の担任の先生が音楽の荒川恭子先生で「あなた声がよいかから音楽を勉強したら？」と言われました。これが私の人生を変えた出会いです。2年生で試験を受け、高校・音楽科に転入しました。小学校3年生からピアノを習っていたので楽譜は読めましたが、音楽科は専門科目がいっぱいあって大変でした。特に和声は全く理解できず、担任の吉岡先生に個人で教えてもらっていました。

Q. 女学院だからこそ、目指した音楽家の道
 もし女学院に行っていなければ、私の音楽家としての人生はありませんでした。当時、同級生たちは「マイの讃美歌、声が大きすぎ」って文句を言っていたのですが、荒川先生が「あの声からかっちゃんいけない。あの才能をつぶしたらダメ」とたしなめ、みんなが「よし、それならマイを応援しよう」と私の大きな声を我慢してくれていたと、最近になって聞きました。女学院には、異質な存在をおおらかに認めて、守ろう、応援しようという空気があります。みんなそれぞれに個性があつて、互いにその存在を大切に思う気持ち、私が、私を育ててくれました。心から感謝しています。ただひとつの心残り、修学旅行に行けなかったことです。ちょうど学生音楽コンクールと重なって・とても残念でした。



高校時代の坂本さんと夏秋さん(旧姓・上野さん)



2023年9月「マイとみっちのミニコンサート」

還暦同窓会
 昨年9月に開いた還暦同窓会。82年高卒の同級生が女学院に集まり、懐かしい先生の授業や礼拝で旧交を温めました。坂本さんは音楽科時代のクラスメイト夏秋さんの伴奏で「すみれ」「クローエ」などを披露、「マイとみっちのミニコンサート」でその歌声を披露しました。



プロフィール

看護大学3期生(2013年度卒業)の野瀬彩乃さんは、現在久留米大学病院の放射線部で看護師としてご活躍中です。オーストラリアへ留学を経験、結婚・出産を経て看護の仕事にまい進する野瀬さんにお話を聞きました。



野瀬 彩乃さん



看護大学時代

1年生のときは、とにかく基礎の勉強。2年生になると基礎看護学実習が始まって、「看護師になるのってこんなに大変なんだ」と思ったのを覚えています。3年になると二年の半分は実習で、テストと両立しなければなりません。看護師として実際に病院で働くとなるとやるべきことが山積みで、国試を乗り越えるためにもまだまだ勉強しないといけないと、実感させられた年でした。人生で一番勉強した時期です。

留学先のオーストラリアで学んだことを教えてください。

オーストラリアには看護留学という形で、現地の医療英語学校に半年ほど通いました。日本で色々考えさせられることが多かった看護倫理について、オーストラリアではどうなのかを学びたくてチャレンジしました。試験に合格し、日本でいう看護助手の立場で仕事をしながら、あらためて日本のホスピタリティのすごさを実感。文化の違いで、大事にすることが違うのです。例えば、ベッドメイキングや入浴介助でも全然方法が違うことに、カルチャーショックを受けました。



野瀬さんの人生において看護とは何ですか？

私の人生において、看護は切り離せないものです。自分でいうのもなんですが、私の天職かなと思っています。

在学生へのメッセージをお願いします。

看護師になって思うのは、福岡女学院看護大学で学ぶことができて良かったなということ。一生の友人にも出会えたと、毎日のチャペルでは、看護師として大切な考え方を知らない間に学ぶことができます。今は意識していなくても、女学院で学べて良かったと思える日がきっと来ます!! 友人や先生たちと楽しむことを忘れずに、学生時代にしかできないことをしてください。適度に勉強、たくさん遊ぶことです。海外留学に興味ある方はいつでも相談のりますよ。人生の経験にすごくいいので、悩んでいる人はぜひ! 英語なんてできなくても行ってみたらなんとかなります!(笑)

福岡女学院
創立139周年

同窓会

ホームカミング&バザー

2024年5月18日(土) 10:00-15:00

同窓生による手作り品のバザーやミッショングッズを販売いたします。
メイポールダンス観覧とともにぜひお立ち寄りください。



卒後25年 クリスマス会のご招待

福岡女学院同窓会主催で毎年クリスマス会を行っています。
今年は、1999(H11)年高卒、1999(H11)年短卒、1999(H11)年大卒
の方々をご招待いたします。お誘いあわせのうえ、お越しく下さい。

日時 2024年12月14日(土) * 詳細は別途ご案内いたします。



\\ お待ちしています! //

福岡女学院創立140周年記念「メサイア」開催決定

2025年12月19日(金)

アクロス福岡シンフォニーホール



2025年度「メサイア」開催
2025年12月19日(金)

アクロス福岡シンフォニーホール
(2024年度は準備のため休止)

皆様に愛されてまいりました
「メサイア」は2025年度140周年
記念を持ちまして終了するこ
とになりました。長らくお支え
頂きありがとうございました。

※2025年度140周年記念「メサイア」に
つきましてはHP等でご案内申し上げま
すのでよろしくお願いいたします。

【お問合せ】092-581-1492(代表)
福岡女学院キリスト教センター事務局

同窓会サポーター募集!

同窓会活動のお手伝いをしてくだ
さる「サポーター」を募集しています。
女学校・中・高・短大・大学・大学院・
看護大すべての卒業生が対象です。
サポーターとしてご登録いただけ
る方は、同窓会事務局までご連絡く
ださい。

ご協力をよろしくお願いいたします!

同窓会の
Instagram
Facebook
随時更新中!



follow us



●福岡女学院同窓会会報「ぶどう」第29号 2024

福岡女学院同窓会

〒811-1313 福岡県福岡市南区日佐 3-42-1
TEL・FAX (092) 575-2479

【URL】 <https://www0.fukujo.ac.jp/alumnae/>
【E-mail】 alumnae@fukujo.ac.jp



福岡女学院 同窓会

検索

■個人情報取扱いについて

2005年4月より、個人情報保護法が制定されました。個人情報を取り扱う同窓会事務局と
しましても、慎重に皆様の会員データを管理しております。懐かしいお友達へのご連絡など、
事務局へ沢山のお問い合わせがございますが、必ずご本人様への確認をさせていただいた
上でお答えしております。同窓会会員には同姓同名の方が多くいらっしゃいます。データ管理
の間違いを防ぐために生年月日のご確認をさせていただきます。皆様のご理解とご協力を
お願いいたします。

住所・氏名変更、同窓会会費その他お問い合わせ、ご連絡は同窓会事務局へ (受付時間:月~金 午前10:00~12:00/午後13:00~17:00)